

# 白彊前進

NO. 7 平成29年8月25日(金)  
附属新潟中学校 学校だより

※ 白彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

## 平成29年度2学期始業式校長講話

校長 柳沼 宏寿

今日からいよいよ二学期が始まります。夏休みの間、しっかりと充電をすることができたでしょうか。この間、中体連の県大会や北信越大会そして音楽祭や各種コンクールなどでの活躍もめざましいものがありました。それぞれの分野で素晴らしい活躍をみせてくれたことを大変うれしく思います。暑い中、そしてまた、進路へ向けての準備もある中お疲れ様でした。二学期は、演劇発表会や音楽の集いなど、文化芸術に関する大事な行事が控えています。すでに周到的な準備を進めてきている様子からも期待が膨らみますが、みなさん独自の新たな表現を楽しみにしています。

さて、この夏、終戦記念日に関連するいくつかの企画の中で、NHKで放送された731部隊の特集を見た人もいるかと思います。この731部隊は、本来は感染症予防や衛生維持管理の研究を目的としていましたが、細菌兵器開発のために人体実験を行っていたとされています。当時関係した大学の研究者の軍事裁判での肉声は、それを改めて証明するもので、私も大きな衝撃を受けました。関わったのは日本の医学最高峰で活躍していた研究者でした。本来、彼らはそのようなことをするために医学の道に進んだわけではなかったはずですが。みなさんと同じ年代の頃、何を目指していたのでしょうか。

例えば、私の尊敬する科学者の一人にノバート・ウィナーという人がいます。彼は、一度経験したことを機械に学習させる「フィードバック」という原理によって「予測制御」を可能にしました。そのウィナーもまた、第二次世界大戦という時代に巻き込まれ、迎撃ミサイルをはじめとした軍事研究に関わらざるをえませんでした。しかし、彼の本来の目標は全く別なものでした。ウィナーが目指していたのは、手足を失ってしまった人のための義手や義足を開発すること、つまり、人間がより人間らしく生きるための方法を科学的に追求していたのです。皆さんは今、何を目指して勉強していますか。そして、その目標はたとえ社会情勢が変わっても信念を曲げることなく抱き続けることができるのでしょうか。

ところで、ここ数年、私は十日町市松之山の下川手集落に保存されている大正時代から昭和時代初期までの子どもたちの絵を調査しています。当時、この地域では、今で言うと小学校1年から中学校2年生までの子どもたちによって下川手少年団が組織されていました。豪雪地帯ですから、雪が降ると少年団の年長者が朝早くカンジキを履いて学校まで往復して道を作り、小さな子どもたちが通学できるようにするなど、地域の子どものために活動していました。私が調査している絵画や書写も、その少年団の活動の一つです。自分達の学力を高めるために絵画や書の制作を呼びかけ、提出された作品を束ねて学校の先生に見せ、朱書きの評価をもらってから、各家庭を回覧するのです。子どもたちは、自分の親が見ることになるので一生懸命取り組みました。これは自分達の学力を自ら高めようとする自治的な教育文化だといえます。その作品を年代ごとに追っていくと大正時代から昭和初期にかけて、戦争をテーマにした作品も増えてきます。戦闘機や戦艦、そして兵隊が多数描かれています。当時描いたご本人にお話を聞くと、それらは自分たちの代わりに戦場へ赴いている兵士への応援や激励の意味を込めて描いたものだそうです。当時は、学校教育もマスコミも、国をあげて戦争の勝利を願う気運に満ちていました。従って、戦地で亡くなった人を讃える情景や突撃している兵隊の英姿など、子どもが描いた戦争は、まさに当時の子どもの素直な思いや願いであったといえます。

一方で、私はこの夏、福島県の白河市にあるアウシュビッツ平和博物館でポーランドの子どもたちが描いた戦争の絵を見てきました。下川手少年団とほぼ同じ時代の子どもの達による戦争の絵なのですが、伝わってくる思いは全く違っています。こちらは、日常の生活に突然ナチスがやってきて両親が連れ去され

たり、目の前で家族や親戚が殺されたりする情景が描かれていました。これはその当時の子どもたちの目に焼き付いた戦争の風景です。日本の子どもたちが描いていた戦争は、実際にみた戦争ではなく、新聞や雑誌あるいはラジオ放送などで伝えられた情報を元に「思い描いた戦争」なのに対し、ポーランドの子どもたちの絵は実際に「目に映った戦争」です。その違いを感じながら、私は、「教育とはどのようにあるべきか」という疑問と共に、この現代を生きるあなた方が「何を見て、何を感じ、表現しているのだろうか」と思いを馳せました。実はこの下川手集落の子どもたちとポーランドの子どもたちの作品の展示会が、今日から9月17日まで新潟大学の医学部近くにある旭町学術資料展示館にて開催されています。興味のある方はぜひ見に行ってみてください。

先に触れた731部隊に関与した研究者の中には、自分の犯してしまったことに対する後悔の念で、刑に服した後に自殺してしまった人もいたそうです。冷静に考えれば、それが正しいことか否かを簡単に判断できるはずなのに、戦争という極めて異常な事態が人間の判断力を奪ってしまうことを如実に表していると思います。戦後70年が経過した今、世の中から戦争の記憶が薄れ、グローバル化とともに生じてきた紛争に見られるように、今、「戦争」というものが新たな問題として浮上つつあります。附属中学校のみなさんには、これからの世の中をリードする人間として、この困難な課題に対峙するための真正な判断力と知恵を磨き上げていってほしいと思います。

折しも、今年は創立70周年であり、9月2日には記念式典が予定されています。附属中学校の70年の歴史は、日本の戦後の歩みとも重なりながら、それぞれの時代における学校のあり方を発信し続けてきたと言えるでしょう。附属中学校を長年支え続けてくださった先輩方や先生方に、これまでの伝統をしっかりと受け継いでいることを、みなさんのありのままの姿で自信を持って伝えていただきたいと思います。

では、皆さんにとって実りの多い2学期になることを祈念しています。長丁場になりますが、気を引き締めて頑張ってください。

## 夏休み中の附属新潟中生徒の活躍

新潟県総合体育大会(7月22日, 23日 県内各会場)

【陸上競技】(五十公野公園競技場)

<男子>

共通走高跳 15位 山田 唯人(3年) 1.65m

共通走高跳 23位 島谷 幸寿(3年) 1.60m

共通三段跳 27位 南 健司(3年) 11.05m

<女子>

共通100M 5位 小幡 玲(3年) 13.06s

共通100MH 準決勝進出 齋藤 なな(3年)

共通4×100MR (氏田悠紀子,小幡玲,齋藤なな,佐藤栄花) 4位 51.44s

共通走幅跳 27位 春山 瑞葉(3年) 4.37m



【水泳】(長岡ダイエーフェニックスプール)

<男子>

200M自由形 2位 峯木 結宇(3年) (全国には0.17秒及ばず) 北信越大会出場!

400M自由形 4位 峯木 結宇(3年)

<女子>

100M平泳ぎ 6位 高橋 実希(2年)

200M平泳ぎ 7位 高橋 実希(2年)

【器械体操】(上越市・大潟体操アリーナ)

<男子> 個人戦 藤田 優(1年) 総合 29位

(裏面へ続く)

【相撲】(見附相撲場)

軽量級 波多野 雄真 (2年) 優勝 (全国大会出場決定戦4位) 北信越大会出場!

北信越総合体育大会 (8月2日, 3日 長野県内各会場)

【水泳】(長野運動公園総合運動場総合市民プール)

<男子>  
200M自由形 4位 峯木 結宇 (3年)

【相撲】(木曾町相撲場)

軽量級 波多野 雄真 (2年) 準優勝

NHK全国学校音楽コンクール

下越地区大会 (7月28日 新潟テルサ) 銀賞

県数学選手権中学生大会 (8月20日 BSN本社)

団体の部 準優勝 野澤 幹太 桑原 応宝 (3年)  
個人の部 準優勝 野澤 幹太 (3年)

新潟市「広島平和記念式典派遣事業」への参加 (8月5日~8月7日)

樋浦 大翔 吉田 健人 (2年) ※8月19日13時半から万代市民会館にて報告会

## 70周年記念式典・フォーラム・講演会に向けて

既にご案内のことですが、1週間後の9月2日(土)、新潟大学教育学部附属新潟中学校創立70周年をお祝いする会が、次の通り開催されます。

- (1) 会場  
新潟県民会館大ホール
- (2) 日程  
午前中は、学校で準備活動、昼食  
12:30 生徒移動  
13:00~13:20 受付  
13:30~16:00 式典・フォーラム・講演会
- (3) 内容

〈記念式典〉13:30~14:00

- ① 開式のことば
- ② 国歌斉唱
- ③ 校長あいさつ
- ④ 祝辞
- ⑤ 映像で見る現在の附属中紹介
- ⑥ 校歌合唱
- ⑦ 閉式のことば

〈フォーラム〉14:00~14:45

同窓生に聴く「附属新潟中が大切にしてきたもの」  
生徒代表の進行によるインタビュー形式の意見交流会  
同窓生4名 滝沢優子さん(合唱指揮者)昭和48年度卒業生(第26回生)  
田中隆之さん(眼科医)昭和62年度卒業生(第40回生)  
北村大輝さん(起業家)平成6年度卒業生(第47回生)  
鈴木博之さん(起業家)平成7年度卒業生(第48回生)

〈フォーラム〉14:00~14:45

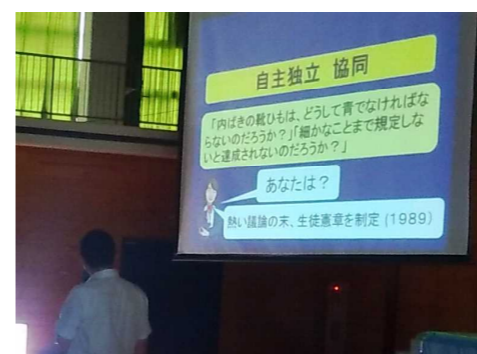
〈講演会〉15:00~16:00

- ① 講師紹介(副校長)
- ② 講演 花角英世さん(附中同窓生)
- ③ お礼の言葉(生徒代表)

この日に向けて、津野副校長先生より、生徒に次のような投げ掛けがなされました。



創立70周年をお祝いする会を行うねらいは、附中発展への誓いを新たにすることと、所属感、連帯感をこれまで以上に高めることです。この目標達成に向けて、共によい時間を創っていきましょう!



みなさんには附中がこれまで大切にしていた「附中スピリット」をフォーラムや講演会から感じ取ってもらいたいと願っています。例えばそれは「自主独立・協同」であり、「生徒憲章」であります。かつての先輩方がどのように考え行動してきたのが「温故知新」の精神を見いだしていきましょう!

さらにその後、70周年記念シンボルマークが美術科田代先生より発表されました。

様々な観点から、卒業生の朝妻航祐さん(高1)の作品となりました。このシンボルマークは今後、様々な場面で活用されていきます。このシンボルマークに込められた「さらなる向上」を目指して、共に頑張っていきましょう!

